

ひと揺れの地震なみに持ちたる蠅叩

藤田湘子

例えば映画のワンシーン。渥美清演じるフーテンの寅さんのように、田舎の旅館で地震を感じて慌てて手近にあつた蠅叩を握りしめ、一揺れ去つた後、何で俺はこんなものを持つているのかと、つくづくと蠅叩を見つめているような情景。誰もがきつと笑つてしまふだろう。

晩年の湘子は、意味もなく、意図せず笑えるようなおかしみの有る俳句を求めていた。それは、得ようとして得られるようなものではなく、作句を長く続け、恩寵としか言えない瞬間に掴み取るような一句。

チャンスの神様には前髪しかなく、出会い頭に掴まなければ、追いかけても捕まえられないと言われている。

枯山の鴉問答相ゆづらず 湘子

1985年 (s60.06.08作) 第八句集『黒』 鑑賞・轍郁摩